

ETAJIMA GoON! Vol.21

interview ——— みんなの『未来の種』になれば嬉しい。

昨年11月、大柿高校の文化祭で初披露され、メディアにも取り上げられた曲「おいでよ江田島」。今回は曲ができるまでの過程やプロジェクトへの思いを、企画者のシンガーソングライター・柴倉樹さんと、CDジャケットを制作中のアーティスト・今田知佐子さんにお話を伺いました。

「行動と実現」を体感してもらうために

このプロジェクトが始まったのは昨年5月、大柿高校から樹さんがPTAによる講演会で話をしてほしいという依頼を受けたことがきっかけだった。「話をいただいた時、せっかくだったらただ話すだけの講演会ではなく、生徒たちの言葉を集めた歌を作りたいという提案をさせてもらいました。そこから現在の2年生である生徒会が中心になってアンケート形式で言葉を集めて、曲を作ったんです」メロディーは樹さん、歌詞は生徒たちという共作プロジェクト。完成してからは、文化祭のお披露目に向けて生徒たちが毎日曲を聴いてくれたという。「実は初めて生徒たちと会ったのは初披露の日なんです。そこで、私が歌を始めたきっかけや、どのようにして夢を叶えたのかという話をさせてもらって、やっと講師らしいことができました(笑)」

最初は、なぜ樹さんが江田島市にいて歌を歌っているのかを話してほしいという依頼だった。話を聞いた生徒たちが、これから社会に巣立っていく上で何らかの活力になればという先生たちの思いを聞き、樹さんは自分の話をするだけでは生徒たちには思いが届かないのではと思った。「私は曲作りを学ぶ専門の学校に行ったわけじゃない。でも、自分はこうするんだと決めて動けば、何でもできるんだよということを生徒たちに知ってほしかったんですよね。だから、江田島市をテーマにした曲を作って、自分たちの言葉が歌になるという『行動と実現』を体感してもらいたかったんです」

「おいでよ江田島」を“未来の種”に

みんなの思いが詰まったこの曲をより多くの人に聞いてもらうため、CDを制作することになった。そこでCDジャケットの制作を担当したのが、沖美町出身で、国内外で活動するアーティストの今田さんだった。「歌詞を見た時、みんなで作るべきだと思いました。企画した学校の先生や樹さんの思い、生徒たちの声、島に対する思い…このプロジェクトがゆくゆくは江田島市の魅力発信につながればいいなと感じたので、市民の方々にも参加してもらおう形でデザインを作ることにしたんです」今田さんのアイデアで、12月にはペイントイベントを開催した。テーマは『自分の手で未来を創る』。中心には大柿高校生たちの手形によるペイントを、背景に市民の方思い思いの丸を描いてもらい、みんなの“未来の種”を表現した。「プロジェクト自体が未来の種。関わったことで変わる未来もあると思います。私も参加させてもらって楽しかったし、ありがたかった。ここからどんな未来が生まれるのか、とても楽しみです」

今後は、3月のCD発売に向けてミュージックビデオの撮影やライブを予定していると笑顔で話す樹さん。「この活動を通して、改めて歌が好きだということも感じることができました。今後はこの曲を聴いた人が、何か気持ちの変化があったり、島をもっと好きになったりしたら嬉しいですね」



完成した作品。ペイントには、子どもから大人までたくさんの方が参加しました。

現在、大柿高校や市内の小学校では昼休憩の際に「おいでよ江田島」が流れている。この曲を聞いた子どもたちは何を思うのか、2人の言う『未来の種』が花開くことを楽しみに待ちたいと思う。



柴倉樹さん

今田知佐子さん

ETAJIMA GoON! (ゴー・オン)

市内で活躍する人やお店をリレー形式で毎月紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、“つなぐ・つながる”をテーマにした企画です。A3判(フルカラー)を市役所や市内各所、電子版で見ることができます。



第72回 “社会を明るくする運動” 広島県推進委員会 作文・標語コンテスト 市内中学生が受賞

“社会を明るくする運動” 作文・標語コンテストは、次世代を担う広島県の小中学生に、日常の家庭生活、学校生活の中で体験したことを基に、犯罪や非行などに関して考えたことや感じたことを作文にすることで、本運動に関する理解を深めてもらうことを目的として

います。第72回となる今回は、標語で市内中学生2人がそれぞれの賞に選ばれました。

■広島保護観察所長賞

尾崎 愛心さん (能美中1年)

■広島県保護司会連合会長賞

石本 愛海さん (江田島中3年)

12月18日 県立広島大学のボランティアグループ キュウリの農業体験を行いました

県立広島大学のボランティアグループ「YELL」に所属する学生が、江田島町エセキ地区にある木村勇作さんの圃場でキュウリの農業体験を行いました。農業体験後、大須コミュニティホームで、江田島野菜出荷組合の山田組合長から江田島のキュウリの歴史について聞き取りました。参加した学生は「いつも食卓に並んでいるきゅうりを生産するために、生産者さんがとても食の安全を意識していることに感銘を受けた。生産者さんの思いを多くの人に知って頂けるよう、しっかりPRしたい」と話していました。YELLでは、今後、本市のキュウリを活用したレシピを開発し、PR活動を行ってきます。



▲キュウリの農業体験

12月20日 能美島ライオンズクラブ プロジェクターを寄贈

能美島ライオンズクラブの団体結成60周年を記念し、同クラブから各認定こども園にプロジェクターが寄贈されました。このプロジェクターは、認定こども園の行事などの活動をより充実させるために、有効に活用させていただきます。



▲記念品受納式の様子

12月20日 組み木創作の会 木製わなげとパズルを寄贈

組み木創作の会の船本光章さんから、子育て世代包括支援センターに木製のわなげとパズルが寄贈されました。このわなげとパズルは、子育て世代包括支援センターの広場で子育て支援の充実のために活用させていただきます。



▲寄贈品受納の様子

12月8日 にこにこはたけ 菜の花の苗植え

子育て世代包括支援センターのにこにこはたけで、矢ノ浦まちづくり協議会と認定こども園たじまの園児たちが一緒に、菜の花の苗を植えました。まちづくり協議会の方に植え方を教わりながら、園児は一生懸命、苗を植えていました。



▲苗を植えた後にみんなで記念撮影

自転車用ヘルメットを着用しましょう

市交通安全協会 ☎0823-42-4100 ・ 江田島警察署 ☎0823-42-0110

令和4年4月に改正した道路交通法により、自転車利用者の全世代対象でヘルメットの着用が努力義務となりました。(令和5年4月1日予定)

自転車乗車中のヘルメット非着用時の致死率は、着用時と比べ高く、特に頭部損傷が重大な事故につながっています。

被害軽減のため、児童・幼児だけでなく、自転車に乗られる方は、自転車用ヘルメットを必ず着用しましょう。



ヘルメット着用促進反響又デッカー

プロ自転車ロードレースチーム「ヴィクトワール広島」と広島県警察が作成したもので、自転車利用者に対するヘルメット着用促進などの交通安全活動時に使用予定です。

